



戸別訪問でのごみ収集について

木村 博(公明党)



問 対象となる世帯とは、どのような世帯なのか。

答 自ら集積所にごみを持ちだすことが困難で、ごみ出し支援を含む他の福祉サービスでの対応、または親族、近隣住民等の協力を得られない世帯で、高齢者や障がい者のみで構成されている世帯が対象となる。

問 他の福祉サービスを受けている世帯は全て対象外となるのか。

答 現在、他のサービスなどでごみ出しが円滑にできている場合には、そちらのサービスの利用の継続をお願いしている。今回の制度では申請者からの聞き取りを基本としており、申請者の事情は個々に違うので、聞き取り結果を踏まえ、真にごみ出しでお困りの方に対してサービスが届くように運用していきたい。

【その他の主な質問】

○先進的な市民農園事業について

○レジリエント機能強化支援について

○シビックプライドについて

故郷の景観について

小野寺 貴男(蒼倫維新)

公共施設マネジメント計画



問 忍川沿いや古代蓮の里等の桜の木について、樹勢回復の取組はしているか。また植え替えの計画はあるか。

答 令和7年度から令和9年度まで、延命化を目的とした被害樹木への樹幹注入や薬剤散布、倒木の危険性がある樹木については伐採するなどの取組を行っている。また、新たに「よみがえれ！行田の桜プロジェクト」を立ち上げ、本プロジェクトを通じて、忍川沿いや古代蓮の里の桜の植え替えの必要性や樹木の種類、河川管理者である埼玉県との調整を含め、計画的に実施していきたい。

問 公共施設マネジメント計画の概略について、2036年以降に更新費用が増える時期に備えた基金の見通しは？

答 公共施設整備基金は、令和4年度に設置し、初年度は5億円、その後毎年度約2億円ずつを積み立て、昨年度末の残高見込みは約9億4千万円となっている。今後も、財政事情を考慮しながら必要な額を積み立てていきたい。

将来にわたり行田が行田であり続けるために

田中 和美(公明党)



問 行田市の人口減少は危機的状況であるため、移住促進に対し、若者特に子育て世代を対象にする考えはあるか。

答 若年層の転出が顕著でありまちの活力向上には若年層への積極的アプローチと移住促進では若年層をターゲットとしPRしていく必要がある。

問 行田市は豊富な歴史・文化遺産に恵まれている一方、移住促進に係る若年層に選ばれる要素にはなり得ない。例えば本市ホームページのトップページからは観光推しのまじと印象付けられ興味を示さないことを危惧する。トップページを再考してはどうか。

答 市ホームページのトップページは市の顔であり第一印象を大きく左右するため、検討を重ねていく。

問 優れた子育て支援を前面にし動画やキャッチコピーも含めた発信についてはどうか。

答 様々なSNS発信に努める。

問 児童対象「未来の市長」の作文募集を行ってはどうか。

答 郷土愛醸成他有効であるため実施に向け検討していく。